
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 150 号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.01.13 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1470 部*****

□ 目 次 □-----

<今週の提言>酉年を迎えて一鳥のように俯瞰する目を一 渡邊 博

<はげましの年賀状ありがとう> 原田 勉

<投稿>大災害にできること 安富六郎

<私たちにもできることがあります> 震災被害支援先情報紹介

<日本たまご事情>

諸羽 (もろは) うちふる鶏 (くだかけ) は 愛鶏園・齋藤富士雄

<旬を食べる一野良からの便り・15>

“こんにやく：お腹の掃除機” 小泉浩郎

<山崎農業研究所情報>

◇第 115 回定例研究会速報 (その 2)

2. 百姓の地ビール起業

——麦雑穀工房マイクロブルワリー代表 馬場 勇氏

<ミニ解説>農業・農村の組織とその役割 (1) 石川秀勇

<農文協図書館情報> (2004/12/27 更新) 農文協図書館・原田太郎

<編集後記・同人の近況報告> 12 月 22 日～1 月 12 日

<今週の提言>酉年を迎えて一鳥のように俯瞰する目を一

新年明けましておめでとうございます。酉の本来の意味は杯などの酒を入れる器だそうで、鳥とは関係無いらしいのですが、古来中国では鳥は五穀豊穡を象徴する縁起のよい動物とされているので、祝酒との掛詞として酉の字が使われたのでしょうか。この辺は私もあまり詳しくないので定かではありません。

話は変わりますが、旧ソ連の名物外相ミコヤン氏という人物がいました。ソビエト官僚にしてはユーモアがあり西側でも結構人気のあった政治家だったと

記憶していますが、彼はどういうわけかピカソの絵がどうしても好きになれず、ことあるごとにケチを付けていました。

過激なまでの抽象的表現はミコヤン氏の好むところではなかったようです。抽象画というのは確かに難解なところがあり、好き嫌いの分かれるところですが、一流の芸術家が描く抽象画には、物事を抽象化あるいは簡略化することにより、より対象の本質を表現する力があります。余分な表現を極力省いた俳句や和歌にも通ずるところがあります。

科学の世界でも事象をどれだけ抽象化して思考できるかということが重要だということがよく言われます。アインシュタインは、個々の細かい事象の研究からだけでは相対性理論は生まれなかったと言っています。最後はもっと抽象的なところでのインスピレーション、想像力が理論構築のきっかけだったそうです。「木を見て森を見ず」では画期的な理論は生まれえないということでしょうか。

コペルニクスやガリレオは地球が円いこと、太陽の周りを回っていることを地上からの観察だけ「想像」することができました。今や人類は、飛行機や人工衛星といった鳥の目を持つようになりましたが、人類の思考能力は本当に進歩しているのかどうか不安に感じるものが少なくありません。偉大な芸術家や科学者は木を見て森を想像し、森を見て木を分析することができます。アフガニスタンやイラクで爆撃を繰り返したどこかの国の指導者の目には、果たして地上の「木」が見えているのでしょうか。酉年を迎えて、ふとこのような事が頭をよぎった次第です。

渡邊 博

山崎農研会員、太陽コンサルタンツ（株）

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<はげましの年賀状ありがとう>

『電子耕』によせられたメールと年賀状に表現された読者からの年賀の言葉に励まされて、心から感謝しております。

○ 『電子耕』の健筆を拝見し喜んでおります（林さん）

- 常に前向きの姿勢に敬意を表す（中川さん）
- 『電子耕』で近況をうかがっております（吉田さん）
- 勉おじさんの近況拝読しています（北海道、千恵子さん）
- 杖をつきながら通勤されているとのこと事故に気をつけてください
(大分、吉永さん)
- メルマガ楽しみにしています（別府、後藤さん）
- 『電子耕』を通じ身近に感じています（大山さん）
- お身体の調子はいかがですか、どうぞご自愛ください。
(静岡、梅田さん。東京、平出さん。福島、佐々木さん。
名古屋、岩崎さん、東京、赤木さん。野上さん。芦川さん。)
- お体の回復を心より祈っております（東京・立石さん）
- ゆっくり会って話し合いたい（渡部さん）
- 病気に負けずがんばっておられると思います（北海道、山根さん）

私が『電子耕』を74才から始めてまもなく、脳内出血で入院したときも多くのメルマガ読者にはげまされ回復しました。その後も血液がんを告白し、さらに多くの励ましを受け、現在は小康を得ています。

最近では眼底出血で目が不自由になり、パソコン操作も難しくなりました。

そうした、いろいろな難病を抱えていることをご存知の読者にご心配をおかけしています。そのことから以上のようなはげましの年賀状が多く寄せられ、大いに元気づけられました。

有難く感謝しております。

このほかの年賀状にも、ありがたいお言葉が数多くありました。お名前だけ紹介します。

- ・ 106歳の近藤康男先生から（代筆）
 - ・ 100歳の針生武巳さんから
 - ・ 北京市農林科学院の宋先生から
「マガジンを読んで安心しています」と、航空便で。
 - ・ 93才の東京高農先輩吉沢二郎さんから
 - ・ 余り勉強が過ぎて眼が悪くなったとのことですが、失明したら大変ですから自重しながらやってください。（茨城、牧）
 - ・ あなたの闘病姿勢に、いつもはげまされているような気がします。
(日野、山田民雄)
 - ・ 今年も一年がんばりましょう。（日本骨髄腫患者の会）
- 以上、今年の年賀状ありがとうございました。

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<投稿>大災害にできること

インド洋周辺諸国に人類未曾有の津波災害が起こった。死者はすでに15万人を越えようとしている。新潟地震に続いて起った超弩級の天災である。なぜこんな大地震と津波が予告もなく起こったのか、それを未然に感知することができなかったか。自然の力に対する人間の無力さを痛感する。現時点での緊急対策としては、国レベルの強力な力がなくてはできまいが、問題はこのような場合にわれわれにどのような対応ができるかである。

ローマの詩人バージル（70-19BC）は地震の力で海面が盛り上がり、その波が岸辺に破壊をもたらすことを農事詩（ジェオルジクス第2巻）に唄っている。こんな古い時代にその因果に注目することを農民に語っているのであるから、現代ではもっと正確に予測ができるはずだ。人命救助だけでも最小限にとどめるには観測網の充実と地域の被害状況のくわしい把握と被災者の人々にも力と勇気を与えるさまざまな計画、支援がなくてはならない。

今後、農地・農業の復興への協力に限ってみれば次のことが考えられる。まず、津波で塩水をかぶった農地の復旧であると思う。このために農地への用水供給は緊急を要する対策ではないだろうか。スリランカでは農地が流されて、その中には多くの対人地雷が浮遊するというから、修復は簡単ではないが、まずは被害状況の正確な情報を得ることであろう。

今回の災害全体の復旧には少なくとも10年はかかると予想されている（国連関係での予測）。この間には百万をはるかに越える被災者への長期の食料支援問題があるのではないか。そのためにの各国にどの程度の増産が可能であろうか。このような事態では、軍拡競争や戦争はやめにして、その分のお金を災害復旧や食料増産に回すことが解のひとつであろう。

安富 六郎

山崎農研会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<私たちにもできることがあります> 震災被害支援先情報紹介

◆スマトラ島沖地震・津波 ◆平成 16 年新潟県中越地震

その他災害支援・ボランティア活動、義援金受付先、支援活動情報 がとてもよくまとめられ、かつ、更新されています。

Yahoo!ボランティア

<http://volunteer.yahoo.co.jp/>

★義援金詐欺にはくれぐれもご注意ください。

<日本たまご事情> 諸羽（もろは）うちふる鶏（くだかけ）は

明けましておめでとうございます、今年もよろしく願いいたします。

昨年の大晦日から関東地方は雪に見舞われ辺りは一面の雪景色となった。雪道に慣れていない車があちこちでトラブルを起こしていた。今年のお正月はあちこちバタバタしないでどっしり農場にいてゆっくり鶏の顔でも見て過ごそう。

情けない話だが永年の習性で、鶏舎の隣にあるボロ事務所の部屋に居るのが一番落ち着く。ここから雪景色の農場を見て歩くことにした。一回りしてから部屋に戻り、買い込んで未だ読んでない本などをめくり、事務所には誰もいないから一人でお茶を淹れる。なんとも貧乏くさいお正月の過ごし方だが、本人は気に入っている。

好きな詩人に島崎藤村（1872-1943）がいるが、部屋で彼の詩集を見ていたら、こんな勇ましいのがあった。

- 1 朝はふたたびここにあり
朝はわれらと共にあり
埋もれよ眠り行けよ夢
隠れよさらば小夜嵐

2 諸羽（もろは）うちふる鶏（くだかけ）は
咽喉（のんど）の笛を吹き鳴らし
けふの命の戦闘（たたかい）の
よそほひせよと叫ぶかな

一番は子供の頃、ラジオ歌謡で聴いた記憶があるが、二番はこういう意味とは知らなかった。まるで鳥インフルエンザで元気のないタマゴ屋さん向けの応援歌と勝手に受け取った。

齋藤 富士雄

（株）愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp>

<旬を食べる一野良からの便り・15> “こんにゃく：お腹の掃除機”

庭先の特設かまど、風を呼び込み燃えるさかる薪、真っ白な湯気をたなびかす煮えたぎる大釜、初冬の太陽は西に傾き淡い光が仕事場を包む。一日掛かりのこんにゃく作りである。

百姓の面白さは、食材を自分で栽培し、加工し、料理しそして食卓に載せることにある。その代表、そば打ち、納豆伏せ、餅つき、とろろ汁そしてこんにゃく作りは、家族総出で行いそれぞれに役割がある。ただ、どう云うわけか、この時の中心は、何処でも常に父親である。子供心にも、てきぱきと立ち振る舞う父親の姿が光って見えた。子供達も薪をくべる。水を運ぶ。餅を丸める。うろちょろするがこの日ばかりは、邪魔扱いはされなかった。

さて、こんにゃくの作り方が、これにはそれぞれ微妙なコツがあり、何処の父親もむら1番だと思っている。生球（芋）を亀の子たわしで洗い、すりおろす。その中に藁を燃やして作った灰汁を入れ、全体が均一になるよう手早く混ぜ合わせる。1時間ほどしてから、前述のたっぷりの湯で30〜1時間ほど茹でてアク抜きをする。これが、初冬限定の生球からの旬のこんにゃくである。色は黒ぼいが、甘味とぷりぷり感、そして特有の香りがあり、刺身でよし、煮物でよし、おでんでよしである。それには、夫婦喧嘩をした日のこんにゃくは上手く固まらないといわれるくらい手加減が大事だ。

生球は、低温に弱く日持ちがしない。だから、収穫した初冬の一時期しか作れない。年中ある市販されているこんにゃくは、精粉（生球を切干して荒粉とし、杵で搗いてでんぷん等を飛ばし、下に残ったマンナン等の結晶）から作られる。そのままでは白いこんにゃくとなるが、市販の黒いこんにゃくの大部分は、生球からのこんにゃくに似せるよう海藻の粉末で色をつけている。

こんにゃくを食用としているのは、日本と中国のほんの一部らしい。英語では「Devil's Tongue (悪魔の舌)」、「Elephant Foot (象の足)」と呼ばれるが、5年目にやっと咲く花の色と形と匂いからの名称で、食べものの名前ではない。ちなみに学名には「Konjac」の文字があり、1000年以上の食用歴を持つ日本の固有の伝統食品である。植物繊維を多く含むアルカリ性食品として健康とダイエットの代表格にある。

小泉 浩郎
山崎農業研究所事務局長
y.nouken@taiyo-c.co.jp

<山崎農業研究所情報>

◇第115回定例研究会速報（その2）

2004年12月10日 新・浪漫亭会議室 20名参加

〔講演要旨〕

2. 百姓の地ビール起業

——麦雑穀工房マイクロブルワリー代表 馬場 勇氏

今地ビールの撤退、閉鎖が相次ぐ業界を知るものは、この起業に誰もが反対した。そんな業界に参入したのはなぜかと思われるだろう。

私は埼玉県の小川町自給農場で地ビールやパンを作っている。はじめは大学で教鞭を取り、余暇に畑を作っていたが、そのうち大学をやめて自給農場に専心するようになった。農地を借りて面積は20aに増えた。アワ、ムギなどの穀類も作った。ムギの製粉には外注で挽いてもらったが、大きい石臼は中に残っている他の粉と混ざる。また製粉費用も高い。だから自分で器械を買って製粉することになった。しかし粉に挽くには時間がかかる。製粉した物をさらに細

かいふるいを通して行うので細かいフルイを探しに行ったところ、たまたまそこにビールキットがあり、これを買って自分でビールを造ってみた。簡単に旨くできた。これに興味を持ち自家製のムギで麦芽を作ればもっと面白いものができると思った。同時に面倒な製粉作業からの開放にもなる。

しかし、地ビール製造の企業化には大きな壁があることが分かった。障壁は酒税法であった。起業には次のようなことをクリアしなくてはならない。(1)建築基準法、(2)酒税法、(3)食品衛生法、(4)下水道法、水質汚濁防止法、(5)廃棄物処理に関する法律などがそれだ。

免許申請書に必要な項目としては、(1)製造設備状況書で食品製造できることが確認できればよい。(2)免許には醸造量として年にビール 60kl 以上の販売量は可能か、あるいは発泡酒製造には 6 kl 以上の販売量は可能か、など厳しい規定がある。(3)びん詰め装置などの衛生上の問題。(4)発酵残渣をどのように処理するか。これは畑に還元できるので有利であった。

1994 年に酒税法が改正され（当時は最低 2000kl 以上から）、現在はビール 60kl 以上の販売量を生産できることが条件となった。2000 年に全国で 300 社が立ち上がり、エチゴビールが地ビール 1 号として誕生。しかし、この年には 14 会社が閉鎖した。翌年 2001 さらに 22 社が閉鎖した。現在（2004.9）、261 社が営業している。埼玉県では免許取得社が 175 社あるが営業は当社含め 4 社のみ。黒字経営は全国 263 のうち数カ所程度ではないかといわれる。

発泡酒製造とビール製造では麦芽使用量割合、ホップの用法および果実野菜の適用などに規制がある。ビールでは麦芽割合は 50～100%でその他の規制も厳しい。しかし発泡酒では麦芽割合にビールのような厳しい制限はなく、イギリス式ホップ用法適用や果実野菜適用の自由度もある。発泡酒製造にはこのような長所があり、生産規模も適当であるので発泡酒の免許を取得した。

このような地ビール生産は全国大手生産総量のわずか 0.075%にすぎない。地ビールの生産コストは人件費ゼロとして計算しても、一例では、年 3 kl 生産で支出約 455 万円に対し収入は約 278 万円と大きな赤字がでる。だから、パブ形式、あるいはレストランなどと一緒に経営するなどの工夫が必要であろう。

地ビール生産には多くの障害があるにもかかわらず、わが社へのボランティアも多い。これは里山の自然農法によるムギ雑穀の利用（味噌、納豆、コンニ

ヤク、キビダンゴ、ソバ、乳製品など)を通して消費者に安心・信頼の食品と健康を届け、同時に自給文化の復活と里山の自然環境保全を考える人が多いからと思われる。(文責：安富六郎)

【参考 URL】

<http://www.craft-beer.net/zkm.html>

<ミニ解説>農業・農村の組織とその役割 (1)

農業・農村には、いろいろな組織があります。その組織には、何をするかといった目的、或は役割があります。そして、それらの組織はさかのぼるとかなり古くに生まれ、法律的な裏づけはなく慣習的な存在といったものもありますが、そうではなくちゃんとした法律の裏づけがあって出来ているものがあります。

ある人から昨年、「農業・農村に関わっていこうと思っているが、何か教えてもらうなどするにしても、農業・農村に縁の薄かったような者には、その関係についてどんな組織があり、どういう人に聞いていったらよいか判らない状況です。また、その組織はどのようなもので、どんな人がそれを担われているか、といったことを理解できるまでにはかなり努力を要します。簡潔に解説した手ごろな本があったら教えてくださいませんか」、と言われました。

図書館などで調べてみましたが、農業・農村の「組織」ということに絞ってのそういった本は、見つけれませんでした。

そこで、次回以降、何回かに分けて努めて平易に紹介してみたいと思います。取り上げる組織名を予め記しますと、さしあたり次の6つを予定しております。これらは普遍的な存在であるとともに、農業・農村を支えている基幹的な組織ともなっております。

- 1) 隣組(村組)などの伝統的な集落組織
- 2) 農事実行組合
- 3) 農協
- 4) 農業委員会
- 5) 土地改良区

6) 地域農業改良普及センター (略称: 普及センター)

石川 秀勇

山崎農研会員、野田市在住

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<農文協図書館情報> (2004/12/27 更新)

◆2004.11.1-11.30 登録の新規収蔵図書

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/01new.html>

◆ニュース: 第2回 食育総合展「ニッポン食育フェア」開催!

2005年1月15日(土) 10:00~18:00 16日(日) 10:00~17:00

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200412/news1.html>

*16日に表彰式のある、

地域に根ざした食育コンクール2004表彰事例

<http://www.ruralnet.or.jp/shokuiku/2004/jusho2004.html>

の◆優秀賞(農林水産省 消費・安全局長賞)のひとつ

幕別町立途別小学校 (教育分野) 北海道中川郡

『とべっ子ふるさとレストラン〜三世代立体交流型の食育活動〜』

http://www.ruralnet.or.jp/shokuiku/2004/jusho2004_03.html

@ここは原田勉の親類が事務職員をしてる学校とわかり、偶然に驚いています。

食育コンクールの事務局には『電子耕』編集同人の栗田庄一さんがいます。

◆話題の図書:

毎日出版文化賞・物集索引賞受賞作品

『安藤昌益全集 全21巻(22分冊)別巻1+増補篇3巻(CD-ROM付)』

安藤昌益研究会編

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai026.html>

安藤昌益は、1703年(元禄16年)、現在の秋田県大館市二井田に生まれた。医学を修め、医業を生業としたが、人体の歪みを見つめるその視線は、社会、環境の歪みへと広がり、独自の思想を形成。それは、当時の封建体制のみならず、

孔子、孟子、孫子ら先哲の教え、仏教思想など戦闘的に批判、自然と人間の調和を基本とした、万人平等のコミュニティを構想するという、日本思想史上破格のものとされる。

*このたび増補篇 3 巻 (CD-ROM 3 枚付) が刊行されました。
増補篇は、医学分野の新発見を収録しています。

<安藤昌益全集 増補篇付録全集 CD-ROM 概要>

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/03wadai026b.html>

CD-ROM は、全集全体の索引検索、書き下し文、章句検索を収録しています。

農山漁村文化協会 発行

農文協図書館 IT 担当 原田太郎

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/>

<編集後記・同人の近況報告>12月22日～1月12日

小学一年生の長男が突然「スマトラ島って知ってるよ」と話しかけてきた。年末年始休暇で自宅でくつろいでいたときのことだった。「スマトラ島沖地震・津波」のニュースをテレビで見たらしい。先日の新潟県中越地震で地震の恐怖の一端を知った彼も、たぶん今回の津波のおそろしさ、被害の大きさは想像できないだろうし、私自身伝えきれないでいる。

彼がまとまった数の海外の国の名前あるいは地名・人名を覚えたのは、2002年のサッカーの世界カップの年だったと思う。「イングランド、ドイツ、ブラジル、ベッカム、カーン、ロナウド…」。楽しそうに、歌うようにこれらの名前を彼が口にしていたのをよく覚えている。だが翌年、彼が繰り返し耳したのは「イラク・フセイン・ブッシュ」であった。

今回の災害復旧には少なくとも10年はかかると予想されているというし、イラクの民主化も軌道にのったとはとてもいいがたい。10年後といえば彼は高校生である。その時世界はどうなっているか。もちろんこれは、いまの大人世代がどうふるまうかにかかっているのだが。(山崎農業研究所会員・田口 均)

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 151号の締め切りは1月24日、発行は1月27日の予定です。

今年も「電子耕」をご愛読頂き有り難うございました。

来年もよろしくお願ひ致します。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735円 発行日：2002年10月4日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 150 号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2005.01.13（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

***** ここまで『電子耕』 *****